

県内・県外若年層社会増減要因アンケート調査の主なポイント

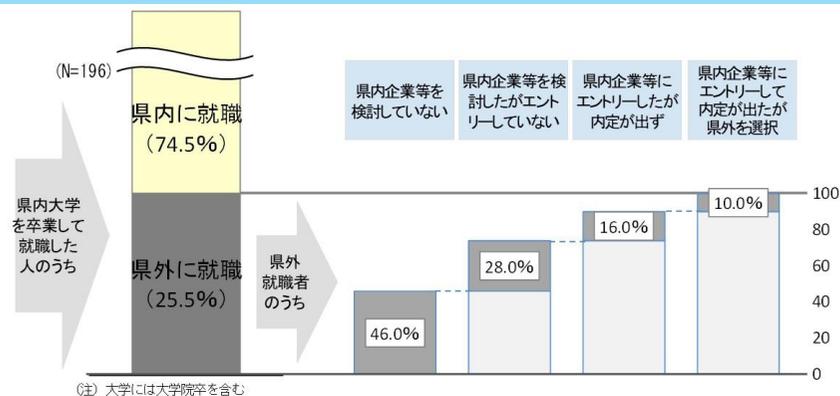
- 就活時に県内就職も検討するが、行動に移さない層がいる①②
- 大卒時Uターン就職者の就職先は官公庁か教育②③

- 県内大を卒業して県外に就職する人のうち、半数以上は県内企業も検討しているが、その半数以上はエントリーせずに県外を選んでいる。①
- 県外大に進学し、県外で就職した県出身者の7割は、県内企業を検討していない。検討した3割のうちの半数も、県内企業にエントリーしていない。②
- 県外大に進学し、就職でUターン（福島県内に就職）した人の就職先は、官公庁・教育が多く、そのまま県外に就職した人はIT・通信が多い。③

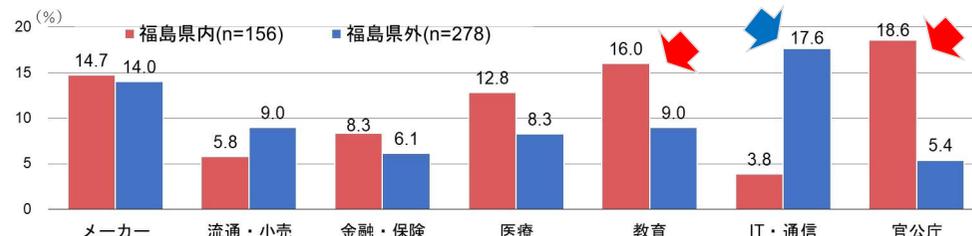
- 東京圏に住むと居住地への要求事項が多くなり、多様な価値観やジェンダー平等などについての意識も高まる④

- 東京圏に住んでいる人ほど、居住地に求める要素が多くなる。
- Uターンした人は自然や子どもをのびのびと育てられる環境を重視している。
- 多様な価値観やジェンダーに対する意識についても差が大きくなる。

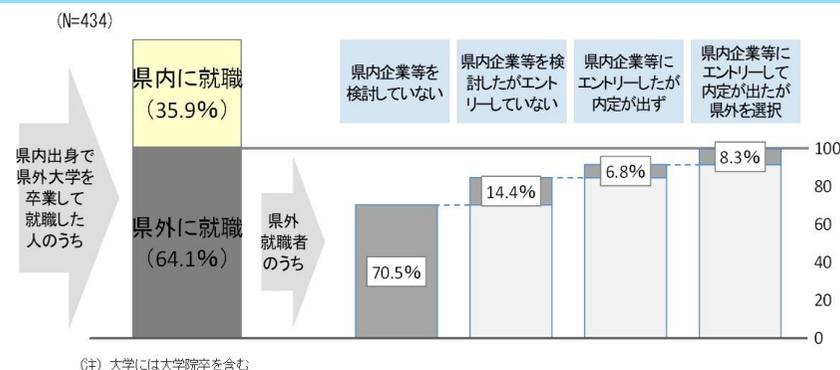
① 県内大学からの就職時における選択



③ 県外大学から初めて就職した先の業種 (主要業種抜粋)



② 県外大学からの就職時における選択



④ 居住地に求める要素 (主要項目抜粋)

	調査数	文化・芸術に触れる機会が多い	余暇が充実している	医療・介護体制が充実している	交通利便性が高い	自然が豊か	おもしろい・楽しい場所・施設が多い	精神的なゆとり	子育てしやすい環境	多様な価値観	定性観念に基づく
全体	2,069	25.4	58.0	68.8	71.8	49.8	45.5	71.9	55.1	44.9	39.1
ずっと福島県	845	19.1	55.7	68.0	70.4	51.5	45.9	70.7	56.0	43.3	36.8
男性	300	21.0	57.3	60.3	62.7	51.0	42.3	67.7	51.3	42.7	33.0
女性	545	18.0	54.9	72.3	74.7	51.7	47.9	72.3	58.5	43.7	38.9
Uターン	530	25.8	55.5	68.5	68.3	50.9	41.1	72.1	56.2	42.5	38.5
男性	253	28.5	60.1	64.4	63.2	45.8	39.5	66.0	50.6	38.7	33.2
女性	277	23.5	51.3	72.2	72.9	55.6	42.6	77.6	61.4	45.8	43.3
現在東京圏	448	37.1	68.3	75.4	82.6	46.4	53.1	75.4	56.2	56.0	45.8
男性	184	32.6	63.0	66.8	78.8	46.7	50.5	68.5	50.5	50.5	37.0
女性	264	40.2	72.0	81.4	85.2	46.2	54.9	80.3	60.2	59.8	51.9

(注) アンケートの対象者は、18歳以上の福島県在住者、及び現在首都圏在住の福島県出身者 (回答2069件)

※①②の県内就職率等の比率は、今回のアンケート対象者による回答の傾向であり、実際の県内就職率等とは異なる可能性がある。